

## 第63回新潟癌治療研究会

日時 平成15年7月26日(土)  
午後1時40分～6時20分  
会場 新潟東映ホテル 2F 朱鷺の間

### 一般演題

#### 1 口腔悪性腫瘍を疑わせた増殖性口腔カンジダ症

岡本 祐一・南部 弘喜・二宮 一智  
又賀 泉・石井 馨\*・片桐 正隆\*  
青木 茂治\*\*  
日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学  
第2講座  
同 病理学講座\*  
同 先端研究センター\*\*

口腔カンジダ症の臨床病態としては、従来より偽膜あるいは肥厚性増殖を示すことが知られていて、さらに増殖性変化を呈する場合も少なくない。今回臨床的に口腔悪性腫瘍を疑ったが、病理組織学的診断においてカンジダ感染に起因する増殖性病変と診断された6症例に関して臨床的検討を行ったので報告する。対象症例6症例の内訳は男性3例、女性3例で、年齢分布は59～73歳、発症部位は頬粘膜3例、歯肉2例、舌1例であった。そのうち2例は口腔癌切除後再建皮弁と粘膜の境界部に発症した。また舌に発症した1例は多発性に発症し、その他の5例は単発性であった。全症例生検および切除後、抗真菌薬の局所および経口投与を行い消失し、病変の再燃は認めていない。

#### 2 VEGFを標的とした口腔癌遺伝子治療の基礎的研究

岡田 康男・又賀 泉・片桐 正隆\*  
上野 光\*\*  
日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学  
第2講座  
日本歯科大学新潟歯学部病理学講座\*  
産業医科大学医学部生化学教室\*\*

口腔扁平上皮癌患者では腫瘍血管新生が遠隔転移に関連し、口腔癌細胞株がVEGFを産生することを報告してきた。したがって血管新生抑制は口腔癌に有効な治療である。今回は可溶性VEGF受容体発現遺伝子を組換えアデノウイルスを用いて投与し、VEGFを捕捉して血管新生を抑制し腫瘍増殖を抑制するin vivo実験を行った。方法：ヌードマウス皮下にSAS細胞移植。flt-1の細胞外ドメインのみを組換えアデノウイルスに導入したAdVEGF-ExRを腫瘍体積が100mm<sup>3</sup>以上増大時に腹腔内に投与し、4週間後に腫瘍摘出し、腫瘍体積、病理組織学的、免疫組織学的に検索。結果：AdVEGF-ExR投与群は対照群に比べ有意に腫瘍増殖を抑制した(p<0.05)。今回の結果より本遺伝子治療が口腔癌治療に有用であり、遺伝子を腫瘍局所に導入しなくても、また、大量に投与しなくても効果が得られたことは今後の臨床応用に有利である。

#### 3 顎口腔領域癌患者における上部消化管内視鏡検査(GIF)の検討

山中 正文・飯田 明彦・高木 律男  
小野 和宏・星名 秀行・藤田 一  
長島 克弘・池田 順行・福田 純一  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
顎顔面口腔外科学分野

本研究の目的は、顎口腔領域の癌と上部消化管病変との関連について詳細な分析を行うことにより、顎口腔領域の癌患者に対する上部消化管内視鏡検査(以下GIF)の有用性、妥当性を検証することである。

対象は、顎口腔領域の扁平上皮癌患者75例で、